

尿路結石の症状は、痛みだけではないんです！頻尿、血尿にも注意！

文 佐々木 裕

text by Hiroshi Sasaki

皆さん、こんにちは。今日は、尿路結石のお話です。

尿路結石というと、痛みで救急車、みたいなイメージを持っている方が多いかもしれませんが。尿路結石は、部位によって腎結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石に分類されます。部位や大きさによってさまざまな症状がでます。

腎臓にある腎結石の多くは、無症状かもしくは少し違和感があるといった感じで、強い痛みが出ることは少ないです。逆に、尿管にある尿管結石は強い痛みを伴うことが多いです。尿管とは、腎臓と膀胱をつなぐ管で、そこに結石が落ちてくると、尿管結石と呼ばれるのです。なぜ、結石で強い痛みが起るのか？これは、結石が動くことで痛いのではなく、結石が尿管内に嵌頓することで腎臓・腎盂内圧が上昇し、周囲の神経の過伸展で発作が起ると考えられています。よって痛いときに水分を積極的に取ると余計痛みが増すことがありますので、結石発作の急性期（発作後、約1週間程度）は注意が必要です。急性期を過ぎると尿管内に結石

が残っていても症状が軽減し、痛みがなくなることもあります。しかし、痛みがなくなつたから結石が治つたということではありません。尿管結石を認める場合は、必ず排石するまで経過を診る必要性がありますので、急性期を過ぎたら積極的に水分を摂取して排石を促しましょう。

尿路結石、痛み以外の症状はありますか？

実は、頻尿にも注意が必要です。尿管結石が膀胱の近くに来るとトイレに何度も行きたくなる膀胱の刺激症状が出る場合があります。尿管の閉塞も起こさずに結石が下降してくると、痛むことなくいきなり排尿回数が増える、

膀胱の刺激症状が出るといったことがあります。頻尿となると、尿路感染症や前立腺肥大症などが多いですが、尿管結石も鑑別疾患となります。また、結石でも痛みを伴わない血尿だけの症状が認められることもあります。結石の場合、痛みを伴う血尿のほうが圧倒的に多いですが、痛みを伴わない血尿

でも結石は鑑別になります。もちろん、こうした痛みのない血尿では尿路がんにも注意が必要です。

結石は、痛みだけでなく、頻尿や血尿などのさまざまな症状を認めることがあります。いろいろな鑑別疾患もあるため、こうした症状を認める場合は、お早めにお近くの泌尿器科でご相談ください。

Profile

医療法人社団 SASAKI CLINIC 理事長
佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師

1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒業。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がんの研究・診断・治療などを行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US 前立腺融合標的の生検の先進医療では、保険適用に尽力した。2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。日帰りの前立腺生検や放射線治療前のスパーサー挿入などにも力を入れている。



泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように